

新連載

リレー随想

日々感懐

このコラムでは、当財団の理事・監事、評議員、選考委員の方々より、日常の業務や生活の中で、心に留まったヘルスリサーチ関連のお話を、毎号リレーで寄稿していただきます。まず第1回の今回は、当財団理事長です。

新オフィスにて

理事長 垣東 徹

6月のある週末、当財団は長年住み慣れた新宿三井ビルから、新宿文化クイントビルへと事務所を移転しました。徒歩で10分足らずの場所への“短距離移転”とは言え、窓外に見える景色はもの珍しく、新しいレイアウトのオフィスは新鮮で、梅雨模様の空にもかかわらず、なぜか心が浮き立ちます。これは平成4年3月の財団設立以来初めてのオフィス移転でした。

思い返せば発足当初4,580万円だった財団の助成金額も、本年度には1億9,000万円(予定)と4倍になり、些かなりともわが国のヘルスリサーチの発展のために貢献してきたと自負しています。よくぞ順調に成長してきたものと、密かに誇らしい気持ちを抱いています。誕生後11年間と言えば人間ならば幼年～少年期の頃。この時期に財団が期待される道を誤ることなく育てこられたのも、ひとえに“親”とも言える理事・監事・評議員の役員や選考委員、主務官庁など関係先の皆さまがしっかりと見守り、暖かいご支援と真摯なご指導を与え続けてくださったお陰であり、感謝の気持ちで一杯です。

その恩を返すためにも、これから迎える財団の青年期、さあどんな熱い活動をしていこうかと、今、心を弾ませる毎日です。



次回は選考委員の厚生労働省大臣官房厚生科学課(主務官庁)課長 中谷 比呂樹 先生にお願いいたします。